

文化のみちのヴォーリス教会建築

名古屋の近代化の歴史の一端を伝える、東区「文化のみち」エリア内に、ヴォーリス建築事務所による教会が残されています。

ウィリアム・メレル・ヴォーリス は、1880 年アメリカカンザス州生まれ、英語科教師として来日し、京都にヴォーリス建築事務所を開設しました。大阪心齋橋の大丸百貨店のような商業建築、豊郷小学校などの学校建築、数多くの教会や住宅建築が全国各地に残されています。また、メンソレータム（メンターム）で著名なヴォーリス合名会社（近江兄弟社）の創立や、ハモンドオルガンを日本に紹介するなど、多様な活動でも知られています。

この教会は、戦後まもない 1928 年に設計され、礼拝堂は、木造平屋建、赤い屋根が印象的です。翡翠色の屋根をもつ塔は、伊勢湾台風の被害に遭い、後に再建されたものだそうです。

内観は、屋根を支える木組みが特徴的で、西側妻面には、光の十字架があります。この十字架は、木枠に黄色の色ガラスで縁取られ、西陽がさしこむ時には、礼拝堂内が黄金色に染まります。

コンサートやバザーなど、地域に親しまれるこの教会は、2012 年 4 月に国の登録有形文化財になりました。(gotoy)

日本福音ルーテル復活教会
名古屋市東区徳川町 2303
設計：ヴォーリス建築事務所（1928 年）
施工：大林組

